

## 【報告】「さがみロボット産業特区」の令和4年度の取組について

### 1 取組の概要

「さがみロボット産業特区」（以下「本特区」という。）では、生活支援ロボットの实用化・普及を通じた県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化に取り組んでおり、ロボットが社会に溶け込み、いのちや生活を支えるパートナーとして活躍する「ロボットと共生する社会」の実現をめざしている。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大や働き方改革の推進により、ロボットが有する非接触・遠隔操作・自動化といった価値が再認識されていることから、今後も、ロボットの開発・実用化を積極的に支援していく。

### 2 数値目標と進捗状況

国から認定された第2期計画（平成30年度～令和4年度）において、6つの数値目標を設定している。

#### ○特区発ロボットの商品化状況(累計)

令和4年11月末現在(件)

	第1期	第2期				
	平成25～29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値	12	5	10	15	20	25
実績値	15	6	10	15	24	27

#### ○実証実験等の実施件数(累計)

令和4年11月末現在(件)

	第1期	第2期				
	平成25～29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値	90	40	80	120	160	200
実績値	186	57	111	168	226	266

#### ○県の企業誘致施策等を活用したロボット関連企業の件数(累計)

令和4年11月末現在(件)

	第1期	第2期				
	平成25～29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値	35	5	11	18	26	35
実績値	15	4	10	14	15	16

#### ○生活支援ロボットに関する特区の取組に参加する県内中小企業の数(累計)

令和4年11月末現在(社)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値	20	40	60	80	100
実績値	20	30	45	58	64

### ○生活支援ロボットの導入施設数(累計)

令和4年11月末現在(箇所)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値	50	100	150	200	250
実績値	104	171	251	303	358

### ○生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数(累計)

令和4年11月末現在(人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値	4,000	60,000	70,000	80,000	90,000
実績値	30,285	61,221	63,241	68,945	75,365

## 3 主な取組

### (1) 生活支援ロボットの実用化促進

#### ア 新型コロナウイルス感染症対策ロボット実装事業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に有用なロボットの实装に意欲的な施設を公募し、採択した4施設に対し、11件の導入実証を行い、ロボットの選定や導入に必要な施設環境の調整など、総合的な支援を行っている。

また、昨年度、医療施設へのロボット実装を支援した成果を活用し、同種施設を主な対象として、ロボット導入に向けたオンラインセミナー等を開催する。

(11月末現在、2回開催し、192名参加)



#### イ 新型コロナウイルス感染症対策ロボット開発支援事業

県民生活の安全・安心の確保と、県内経済の活性化を図るため、新型コロナウイルス感染症対策に効果的なロボットプロジェクトを公募し、採択した4件に対して、商品化に向けた開発支援や実証実験の実施、広報活動等を支援している。

#### ウ ロボット開発プロジェクト総合支援事業

県内中小企業が取り組むロボット開発プロジェクトと、それを支援する機関を公募し、採択した2件について技術面のほか経営面や営業面でのアドバイスなど、総合的な支援を行っている。

#### エ 公募型「ロボット実証実験支援事業」

ロボットの实用化を図る上で不可欠な実証実験の計画を全国から募集し、採択した5件に対して、実証場所やモニターに関する調整、実証に係る経費の一部支援などを行っている。

#### オ 重点プロジェクト

ロボットの開発プロジェクト（11月末現在21件）のうち、早期の実用化が期待できるものや、県民生活に大きなインパクトを与えるものなどを、「重点プロジェクト」に指定し、複数年にわたり、実証場所やモニターに関する調整、実証に係る経費の一部支援など実施している。

#### カ 神奈川版オープンイノベーション

県と産業技術総合研究所の連携のもと設置した「ロボット研究会」において、企業等の技術連携を促進し、ロボットの商品化を目指している。

（令和4年3月31日現在の研究会参加者は企業や大学等282者、プロジェクトは5件）

#### キ プレ実証フィールドの運営

平成26年度に相模原市南区の元県立新磯高等学校を活用して「プレ実証フィールド」を開設した。ドローン実験用ネット、実験用模擬道路などの設備を備え、本格的な実証実験を行う前に模擬的な環境でロボットの完成度を高める「プレ実証（実験）」の場として提供している。

### (2) 生活支援ロボットの普及促進

#### ア ロボット導入支援事業

民間施設等へのロボット普及を促すため、本特区の取組を活用して商品化されたロボットの導入経費に対して助成している（補助率：1／3）。

#### イ ロボット体験施設

藤沢市辻堂のロボット展示施設「ロボテラス（アイクロス湘南内）」に、ロボットを実際に体験できる施設（コーナー）を常設している。

#### ウ モニター制度

生活支援ロボットの普及・導入を促進するため、介護施設等で、購入決定前に2週間～1か月程度試用してもらう取組を実施している。

（今年度は、13種類のロボットを対象に実施）

### (3) ロボット関連企業の参加促進

#### ア 参加促進の取組

令和2年度に、中小企業等によるロボット関連産業への参入を支援するため、優れたロボット関連技術を紹介し、企業間交流を促進する「ロボット技術マッチングサイト」を構築し。

（令和4年3月31日現在の掲載件数は、40社（44技術））

## イ 企業誘致の推進

企業誘致施策「セレクト神奈川NEXT」等のインセンティブ（企業立地促進補助金、不動産取得税の不均一課税、低利融資、企業誘致促進賃料補助金等）や、重点プロジェクトをはじめとする企業へのロボット実用化支援の取組などを通じて、ロボット関連企業の誘致に引き続き取り組んでいく。

(参考) 令和4年4月から12月までに商品化したロボット 3件

ロボット名	事業主体	ロボット名	事業主体
清掃ロボットCL-02（ワイパー清掃タイプ）【令和4年5月】	CYBERDYNE(株)	マッスルスーツGS-BACK【令和4年8月】	(株)イノフィス
			
ロボット名	事業主体		
emi orchestrator（自律走行型パーソナルロボット「temi」向けソフトウェア）【令和4年9月】	NITコミュニケーションズ(株)		
			